

日本経営学会第66回大会……………	1	事務連絡事項……………	3
会員総会における報告事項……………	1	日本経営学会役員一覧……………	4
会員総会における決定事項……………	2	新入会員・復活会員・退会会員……………	5
学会役員の改選……………	2	平成3年度決算・平成4年度予算……………	9
新理事会における決定事項など……………	2	住所、所属機関等変更・訂正一覧……………	10
経営学会国際連合東京大会……………	3		

日本経営学会第66回大会

日本経営学会第66回大会は、平成4年9月3日から6日にかけて、明治大学駿河台校舎で開催されました。今回の大会では、9月4日に会員総会が開催され、そこで学会理事の改選が行われ、その結果を受けて5日には学会新理事会が開かれて学会の新役員が決定されました。会員総会と新理事会での決定事項および報告事項は次のとおりです。

〔1〕 会員総会における報告事項

1. 会員の異動について

前回大会から本大会までの間の会員の異動は表1-1から表2-3に示したとおりである。この結果、本会の会員数は1,990名、その部会別の内訳は表2-4のようになった。

2. 第67回大会の統一論題について

9月3日の理事会でプログラム委員会の提案が検討された結果、第67回大会の統一論題を『世界の中の日本企業』とし、「日本企業の国際貢献」、「日本的企業システムの検討課題」、「日本型生産システムの有効性と限界」という3つの柱を設けることが決定された。なお、この統一論題の趣旨について、会員総会で林昭プログラム委員長から説明があった。

3. 日本学術会議経営学研究連絡委員の推薦について

本会では、昨年11月、標記の委員として藤井光男氏を推薦した。

4. 日本学術会議による国際会議への派遣候補者について

本会では、1992年度日本学術会議による国際会議への派遣について、ドイツを中心とする国際経営学会への派遣候補者として藤井光男氏を推薦し、その結果同氏が国際経営学会へ派遣された。会員総会では、藤井氏から会議の模様について報告があった。

5. 経営学会国際連合東京大会について
野口祐東京大会実行委員長より、東京大会が9月6日の国際連合役員会から開会される運びになったこと、ならびに大会参加申込者の状況などについての説明が行われ、また東京大会開催についての日本経営学会会員諸氏の協力に対して感謝の言葉が述べられた。

6. 機関誌問題検討委員会からの報告
今井委員長より、機関誌刊行の必要性が強いので、この検討委員会を解散し、新たに機関誌刊行委員会を設けて機関誌刊行に向けて具体的を検討を行うべきであるとする委員会の意向が報告されました。これに関して、田島理事長より理事会としては、機関誌刊行に向けて刊行の具体的な条件についての検討を新理事会に要望することになった旨補足説明が行われた。

〔2〕 会員総会における決定事項

1. 平成3年度決算について
平成3年度決算の理事会案が承認された。(表-3)
2. 平成4年度予算について
平成4年度予算の理事会案が承認された。(表-4)
3. 顧問の委嘱について
海道進前理事長に本会顧問を委嘱するという理事会提案が承認された。
4. 会計監査人の委嘱について
高橋昭三、林昭の両氏に会計監査人を委嘱するという理事会案が承認された。

〔3〕 日本経営学会の役員改選結果について

9月4日の会員総会で理事選挙が行われ、またその結果を受けて9月5日には新理事会が開催されて本会の各種役員が決定された。その結果は4ページの一覧表に示したとおりである。

なお、第68回大会(当番校=山梨学院大学)プログラム委員会の委員として次の各氏が選出されました。(◎印=委員長)

当番校側委員：阿部隆是 萩下峰一
理事会側委員：貫 隆夫 阪柳豊秋
藤井光男 ◎二神恭一
丸山恵也

〔4〕 新理事会における決定事項など

1. 経営学論集の原稿について
経営学論集の印刷方式が今回からオフセット印刷に切り替えられたのを受けて、論集の執筆者に原稿をワープロで作成した原稿の提出を求め、その原稿をそのまま写真製版に使用する可能性について検討することを、年報改善委員会に要望することになった。
2. 機関誌の発行について
旧理事会からの申し送りを受けて、レフリー付きの機関誌を刊行するための具体的な条件(所用費用、レフリー体制の確立など)についての検討を機関誌問題検討委員会に要望することになった。

3. 入会申込の期限と添付資料について
最近、入会審査の基準を満たしているか否かの判定が難しい例が増加してきていることを考慮して、標記の件について次のような決定が行われた。
「大学、短大で経営学、商学およびその関連分野の専任教員の職にある者、これらの分野の大学院博士後期課程に在学し

ている者の入会申込は従来通りとし、それ以外の者の入会申込に際しては、予め研究業績の添付を求め、大会の半年前に申込を締め切って、実質的な業績審査を行う方式を導入する。」

入会申込者の紹介者になる場合には、この点にご注意下さい。

経営学会国際連合東京大会 The First IFSAM Conference, Tokyo

経営学会国際連合の記念すべき第1回大会が、「学会ニュースNo.1/1992.4」でお知らせしたとおり、9月7日から9日にかけて東京の京王プラザホテルを会場として開催された。7日午前には開会式と Alain Burlaud (フランス)、野口祐両教授による基調報告、また午後には7コースに別れてのテクニカルビジットが行われた。8日と9日の両日には、4つの会場で16のテーマ別分科会が開かれ、合わせて110余の報告と討論が行われたほか、日、米、独の4人の著名な産業人を講師とするランチョン・スピーチも行われた。大会は9日夜のフェアウエルパーティをもって閉じられたが、10日にはなお6コースのテク

ニカルビジットが用意された。この大会の参加者数は550名(国外からの参加者が110名余)に上り、参加者の国籍は24ヶ国に及んだ。

なお、6日には経営学国際連合の役員会が開催され、次回1994年の大会をアメリカで開催することが決定され、また1993年1月から任期の始まる役員の選出が行われた。選出された新役員は次のとおりである。

President : Prof. Janice M. Beyer
Past-President : Prof. Tasuku Noguchi
President-Elect : Prof. Alain Burlaud
Secretary : Prof. Sytse Douma
Treasurer : Prof. Yasuyoshi Kurokawa

-----* * *-----
〔事務連絡事項〕

- * 経営学会国際連合東京大会の Proceedings (A 4版459ページ+Supplement46ページ) が多少残っていますので購入ご希望の方は学会事務所へ申し込んで下さい。会員には1部5,000円(会員以外には10,000円)で、在庫が無くなるまで先着順に受け付けます。
- * 平成2年度より会費が6,000円になりました。会費未納の方は、同封の振替用紙にて、すみやかにご送金下さるようお願いいたします。
- * 会員名簿記載事項が実情と相違する場合には、文書の郵送その他学会事務の処理に支障をきたしますので、その変更、特に住所の変更がありました場合には、すみやかに本部宛ご連絡下さい。
- * 学会事務所の事務員の勤務は、月・水・金曜日の10時から17時まで(ただし12時から13時までは昼休み)ですので、電話連絡に関しましては、月・水・金曜日上記時間帯にお願いいたします。〔TEL 0425-72-1101 内線864〕

日 本 経 営 学 会 役 員 一 覧

理 事 長	田島 壯幸			
常 任 理 事	総務担当	藤井 光男	総務担当	森 昭夫
	大会担当	二神 恭一	大会担当	島袋 嘉昌
	会計担当	村田 和彦	国際関係担当	稲村 毅
理 事	(東日本)		(西日本)	
	大西 勝明	阪柳 豊秋	市村 昭三	稲村 毅
	篠崎 恒夫	鈴木 辰治	大橋 昭一	加護野忠男
	高橋 俊夫	田島 壯幸	片岡 信之	佐野 守
	貫 隆夫	藤井 光男	島袋 嘉昌	仲田 正機
	二神 恭一	丸山 恵也	原田 実	前川 恭一
	村田 和彦	村田 稔	森 昭夫	森本 隆男
	森本 三男		吉原 英樹	
顧 問	藻利 重隆		(昭和59年9月5日委嘱)	
	山城 章	山本安次郎	(平成元年9月12日委嘱)	
	海道 進		(平成4年9月4日委嘱)	
会計監査人	高橋 昭三	林 昭	(平成4年9月4日委嘱)	
東日本代表及び西日本代表				
部 会 代 表	東日本代表	藤井 光男	西日本代表	森 昭夫
	北海道部会代表	篠崎 恒夫	中部部会代表	佐野 守
	東北部会代表	鈴木 辰治	関西部会代表	森 昭夫
	関東部会代表	藤井 光男	九州部会代表	原田 実
幹 事	(東日本)		(西日本)	
	小松 章	榊原 研互	丑山 優	坂下 昭宣
	坂野 友昭	林 伸二	芝 隆史	田中 照純
	百田 義治		浜川 一憲	
年報改善委員会委員 (○印は委員長)				
	大橋 昭一	片岡 信之	○田島 壯幸	貫 隆夫
	藤井 光男	丸山 恵也	森 昭夫	
機関誌問題検討委員会委員				
	大西 勝明	加護野忠男	高橋 俊夫	仲田 正機
	○村田 稔	森本 隆男		
国際会議委員		(東日本)	(西日本)	
	植竹 晃久	小笠原英司	赤岡 功	安室 憲一
	林 正樹		吉田 修	
経済学会連合評議員		村田 稔	森本 三男	
経済学会連合英文年報編集委員		村田 稔		